

園芸タイムリー情報

《 8 月中・下旬版 》

平成27年 8月17日発行 第7号
 上川農業改良普及センター
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
 E-mail asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm



全作物共通
 ○気温の高い日が続いています。ハウスの換気等を十分行い、適正な温度・湿度管理に努めましょう。
 ○局地的な降雨を想定して、露地栽培では明きよ等の排水路を確保しましょう。ハウスでは、浸透水や雨水の侵入に留意し、ビニールの破損等は補修しておきましょう。
 ○病害虫の発生盛期です。発生予察による適切な防除に努めましょう。
 ○整枝等の作業は晴天の日に行い、傷口からの病害の侵入を防止しましょう。
 ○農薬使用時は登録内容を確認するとともに、散布器具の洗浄など適切な管理のもと、防除を実施しましょう。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名	トマト類
病害虫生理障害名	
葉かび病	
発生状況	
多発生	
発生時期	
5月下旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ・病斑は、はじめ下位葉に現われ、しだいに上位葉にひろがる。 ・はじめ葉の表面の一部がわずかに黄変し、その裏側に灰白色の輪郭の不鮮明な病斑を生じ、灰白色のヒロード状のカビを密生する。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。 ・適期に追肥を行い、草勢維持に努める。 ・被害残渣は適切にほ場外へ搬出する。 <p><防除の一例（トマト・ミニトマト共通）> ●トリフミン水和剤 3,000～5,000倍 収穫前日まで 5回以内 ●アフェットフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内</p> <p>※アフェットフロアブルの使用回数は3回以内となっているが、耐性菌の出現を防ぐため1～2回/年の使用に留める。</p>	

作物名	トマト類
病害虫生理障害名	 <p>黒いカビが生じることもある</p>  <p>葉表の症状</p>
すすかび病	
発生状況	
中発生	
発生時期	
6月上旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ・症状が葉かび病と非常によく似ている。 ・気温が高くなってから見られるようになった。 ・葉表が黄変し、徐々に茶色に枯れ込む。 ・葉裏には灰色、黒色のカビが生じている。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。 ・被害葉は摘除し、残渣は適切にほ場外へ搬出する。 <p><防除の一例（トマト・ミニトマト共通）> ●トリフミン水和剤 3,000倍 収穫前日まで 5回以内 ●アフェットフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内</p> <p>※アフェットフロアブルの使用回数は3回以内となっているが、耐性菌の出現を防ぐため1～2回/年の使用に留める。</p>	

作物名	トマト類
病害虫生理障害名	
灰色かび病	
発生状況	
中発生	
発生時期	
6月上旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ・花びらのかすや、花落ち部分からの発生が多く見られる。 ・20℃くらいで多湿のときに発生しやすい。 ・密植、軟弱生長、過繁茂により多発する。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。 ・被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。 <p><防除の一例（トマト・ミニトマト共通）> ●セイビアーフロアブル20 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内 ●ロブラール水和剤 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内 ●カンタスドライフロアブル 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内</p>	

作物名	トマト・ミニトマト
病害虫生理障害名	 <p>オンシツコナジラミ (卵～成虫)</p>  <p>本虫の排泄物で汚れた葉と果実</p>
オンシツコナジラミ	
発生状況	
発生に注意	
発生時期	
8月上旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ・成虫は白い1.5mmほどの虫で、主に葉裏に集中して寄生している。 ・成虫や幼虫の排泄物により果実では商品価値が著しく低下する。（濡れた布等で拭き取れるが手間がかかる）。 ・茎葉では成虫、幼虫による吸汁害により生育が阻害される。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・卵～成虫まで全てのステージが同一ほ場に存在し、薬剤耐性も付きやすい。 ・激発すると防除が難しいので、ほ場をよく観察し、発生初期から薬剤散布を行う。 ・薬剤防除は葉裏までしっかりと薬液がかかるよう、念入りに実施する。 <p><防除の一例（トマト・ミニトマト共通）> ●ディアナSC 2,500倍 収穫前日まで 2回以内 ●モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●ウララDF 2,000倍 収穫前日まで 3回以内</p>	


作物名	トマト類	
病虫害生理障害名		
トマトサビダニ		
発生状況	少発生	
発生時期	7月中旬～	
<p>写真左：茶褐色化した茎 写真右上：ツヤのない果実</p>		
<p>発生の状況・要因</p> <ul style="list-style-type: none"> 茎葉や果実が茶褐色に変色し、ツヤがなく、下位葉から枯死している。 体長約0.2mmと、非常に小さいため、肉眼では見えない。 高温期に発生が多くなる。 前年発生したほ場では特に注意が必要である。 		
<p>対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。 <p><防除の一例：トマト・ミニトマト登録></p> <ul style="list-style-type: none"> ●マルハナバチを放飼している場合 マイトコーネフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 1回以内 コロマイト乳剤 1,500倍 収穫前日まで 2回以内 ●マルハナバチを放飼していない場合 コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 アファーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 5回以内 		


作物名	ピーマン	
病虫害生理障害名		
チャノホコリダニ		
発生状況	発生に注意	
発生時期	8月中旬	
<p>加害された生長点 加害され、サメ肌状となった果実</p>		
<p>発生の状況・要因</p> <ul style="list-style-type: none"> 例年、8月に入ると著しく加害された株が散見される。 生長点に加害されると葉が萎縮し、奇形となり、芯が止まる。 果実が加害されるとサメ肌状となり、茶褐色に変色する。 		
<p>対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 例年、発生しているほ場では、薬剤散布を実施する。 上部の茎葉、果実に重点的に散布する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●カネマイトフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 1回 ●モレスタン水和剤 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●ハチハチ乳剤 1,000倍 収穫前日まで 2回以内 		


作物名	ナス科果菜類（トマト類・ピーマンなど）	
病虫害生理障害名		
オオタバコガ	トマトに食入した幼虫	
発生状況	多発生に注意	
発生時期	8月上旬～	
<p>成虫</p>		
<p>発生の状況・要因</p> <ul style="list-style-type: none"> 上位の茎葉に幼虫が見られ、果実の食害が著しい。 ヨトウムシ類のように集団での食害はないものの、ハウス内でまばらに見られる。 上川農業試験場（比布町）で飛来成虫が例年よりも早く、多く確認されている。 		
<p>対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 多発すると被害が甚大となるので、ほ場をよく観察し、発生初期から薬剤散布を行う。 <p><防除の一例：トマト・ミニトマト></p> <ul style="list-style-type: none"> ●アファーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 5回以内 ●コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●フェニックス顆粒水和剤 2,000～4,000倍 収穫前日まで 2回以内 <p><防除の一例：ピーマン></p> <ul style="list-style-type: none"> ●アファーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●フェニックスジェット 50g/高さ2m×200㎡ 収穫前日まで 2回以内 <p><防除の一例：ししとう・とうがらし類></p> <ul style="list-style-type: none"> ●プレバソンフロアブル5 1,000～2,000倍 収穫前日まで 3回以内 		

作物名	きゅうり	
病虫害生理障害名		
褐斑病		
発生状況	中発生	
発生時期	6～10月	
<p>大型の斑点症状 新葉に発生する小斑点症状</p>		
<p>発生の状況・要因</p> <ul style="list-style-type: none"> 葉に淡褐色の小斑点が発生し、やがて拡大して病斑上に黒っぽいかびを生ずる。 べと病と間違えやすいが、褐斑病は病斑が丸みをおびて、表面にかびを生ずる。 生育適温28℃、高温多湿条件下で発生する。 ハウス内の土壌や資材に菌が付着し、翌年の発生源となるため、以前に発生したことのあるほ場では特に注意が必要となる。 本年は、降雨が断続的であったことから、発生が多い状況。また、現在は高温や成り疲れの影響などから、発生が見られるほ場がさらに増えてきている。 		
<p>対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ほ場をよく観察し、発病葉は摘除する。 積極的な換気を行い、ハウス内湿度を高めないようにする。 新葉に小斑点が発生すると、症状の進行が早いので、防除間隔を通常より狭めるなどの対策を講じる。 薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一、同系統薬剤は連用しない。 ほ場全体に発生が拡大した場合は、草勢を確保するため罹病葉の摘葉を続けながら、側枝の摘心を控え、生長点を多く確保する。また、通常よりやや間隔を狭めて防除を行う。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●カンタスドライフロアブル 1,500倍 収穫前日まで 3回以内 ●ジマンダイセン水和剤 600倍 収穫前日まで 3回以内 ●ダコニール1000 1,500倍 収穫前日まで 8回以内 ※カンタスドライフロアブルは、耐性菌の出現を回避するため年1回の使用に留める。 ※ダコニール1000は、プロポーズ顆粒水和剤と合わせて8回以内とする。 		

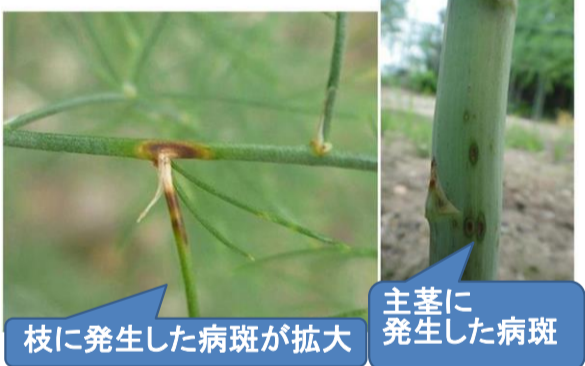
作物名	きゅうり
病虫害生理障害名	
ベと病	
発生状況	
少発生	
発生時期	
7月下旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ・始めは、葉脈に囲まれた角形で黄色の病斑を形成し、古くなると褐変し、多湿時には、葉裏に黒色のかびを生じる。 ・褐斑病と良く似ているが、ベと病は病斑が黄色味を帯び、葉裏にかびを生じることから判別できる。 ・曇雨天が続いたり、ハウス内が多湿となると発生しやすい。また、肥料切れでも発生が助長される。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・適正な管理で草勢を保つとともに積極的な換気を行い、ハウス内湿度を高めないようにする。 ・発病初期に防除を開始する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●リドミルゴールドMZ 1,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●ライメイフロアブル 2,000～4,000倍 収穫前日まで 4回以内 ●ランマンフロアブル 1,000～2,000倍 収穫前日まで 4回以内 <p>※リドミルゴールドMZは、フェスティバルM水和剤・ジマンダイセン水和剤と合わせて3回までの使用回数です。</p>	

作物名	きゅうり
病虫害生理障害名	
うどんこ病	
発生状況	
少発生	
発生時期	
6月上旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ・葉上にうどん粉をふりかけたように白色、粉状のカビを生ずる。 ・多湿から乾燥まで広範囲の湿度条件下で蔓延し、やや高めの気温(25℃くらい)で発生しやすい。 ・成り疲れや肥料切れなどで樹勢の衰えた場合に発生しやすい。 ・特に、ハウスサイドからの発生が多い。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・葉表、裏ともに症状が発生するため、葉裏の発生状況も確認する。 ・ほ場内が乾燥条件とならないよう注意する。 ・発生を確認したら早期に防除を行う。 ・防除は、農薬の登録の範囲内で十分な散布量を確認し、薬液がしっかりとかかるように行う。通路側からだけでなく、できる限りハウスサイドにも防除を行う。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ポリバリン水和剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●パンチョTF顆粒水和剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●カスミンボルドー 1,000倍 収穫前日まで 5回以内 <p>※パンチョTF顆粒水和剤とトリフミン水和剤の総使用回数は合わせて5回まで</p> <p>※ポリバリン水和剤とベルコート水和剤の総使用回数は合わせて5回まで</p>	

作物名	こまつな・みずな・チンゲンサイ等の あぶらな科葉菜類
病虫害生理障害名	
キスジノミハムシ	
発生状況	
少発生	
発生時期	
5月下旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ・7月中旬以降高温で経過し、8月上旬より発生が目立ってきている。 ・今後、被害が増大する可能性がある。 <ul style="list-style-type: none"> ●産卵期間:20～50日 ●卵期間:3～5日 ●幼虫期間:10～20日 ●蛹期間:3～15日 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・成虫の多発時は防除効果が劣るため、ほ場をよく観察し、発生初期防除に努める。 ・土壌施用剤は、土壌水分が極端に低下すると効果が劣るため、かん水管理に留意する。 ・ハウス内外の雑草や残さを適切に処分し、発生密度を高めないようにする。 ・防虫網の隙間のないように点検を実施。 ・忌避資材(サニーマルチ)の活用(写真ハウス下部) <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●こまつな フォース粒剤 4kg/10a は種時全面土壌混和 1回 ●チンゲンサイ スタークル粒剤 6kg/10a 定植時全面土壌混和 1回 ●チンゲンサイ・ターサイ・みずな・こまつな モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 収穫7日前まで 1回 <p>※モスピラン粒剤を使用する場合は、品目によってモスピラン顆粒水溶剤と合わせた使用回数異なりますので、確認を行いましう。</p>	

作物名	こまつな・みずな・チンゲンサイ 等のあぶらな科葉菜類
病虫害生理障害名	
コナガ	
発生状況	
少発生	
発生時期	
6月中旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ・7月中旬から高温で経過し、8月上旬以降発生が目立ってきている。 ・今後、被害が増大する可能性がある。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内外のあぶらな科雑草を適時除草する。 ・防虫ネットの効果が高めるため、侵入口となる隙間ができないように設置状況を随時確認する。 ・トンネルかけの場合は、雑草によりネットが持ち上がるため、除草も併せて実施する(写真左参照)。 ・薬剤抵抗性が発達しているため、薬剤散布後に効果の確認を行い、効果が劣る場合は他系統の薬剤に切り替える。 ・品目により薬剤の登録が違うので、ラベルを確認してから使用する。 	

作物名	ほうれんそう
病虫害 生理障害名	
立枯性病害	
発生状況	
中発生	
発生時期	
6月下旬～	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">萎凋病 根の先端が腐敗</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">株腐病 地際部で褐変腐敗</div> </div>
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 7月の高温により、萎凋病等の発生しやすい状況となった。 地上部の症状は本葉4葉期頃より、子葉および本葉の黄化としおれが見られる。 その他の立枯性病害としては、株腐病が多く見られる。株腐病の場合、地上部の症状は萎凋病と類似するが、根物は付け根から腐敗する。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> いずれの病害も土壌病害であることから、土壌還元消毒や薬剤による土壌消毒が効果的である。 被害株は早めに除去し、残さがほ場に残らないようにする。 例年、発生がみられるほ場は、被害株や残さ(根)をほ場外へ搬出する。 <p><土壌消毒の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●バスアミド(ガスタード)微粒剤： (地温20℃以上) 20～30kg/10a(均一散布後に土壌混和)は種10日前まで ※薬剤散布時は適度な土壌水分が必要である (握って軽く固まる程度)。 <p>処理終了後は、薬害防止のため耕起を2回行い、ガス抜きを行う。</p>	

作物名	アスパラガス
病虫害 生理障害名	
斑点病	
発生状況	
発生に注意	
発生時期	
8月上旬～	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; color: blue;">枝に発生した病斑が拡大</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; color: blue;">主茎に発生した病斑</div> </div>
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 茎や枝に楕円形の小さな(2×6mm程度)病斑を生じる。 病斑が拡大して茎、枝、葉を取り囲むとその上方は枯死落葉する。 降雨の2～3日後に分生子の飛散が増え、その後病害の発生が多くなるので注意する。 風通しが悪い条件(過繁茂の株や倒伏した株)で発生しやすい。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> 茎葉は倒伏させない。 8月中旬以降発生が拡大するので、ほ場をよく観察し発病初期から7～10日間隔で薬剤散布を行う。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●アミスター20フロアブル 2,000倍 収穫前日まで 4回以内 ●ストロビーフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 <p>※アミスター20フロアブルとストロビーフロアブルは同系統のため、連用を避ける。</p>	

作物名	えだまめ
病虫害 生理障害名	
マメシンクイガ	
発生状況	
発生に注意	
発生時期	
7月下旬～	被害莢と老熟幼虫
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 幼虫が未熟な莢の内部に侵入し、子実を食害する。 侵入孔は小さいため、外見から被害を判断するのは難しい。 成虫は7月下旬～8月上旬に羽化し、直後から若い莢に産卵する。 7～9日程度で卵からふ化した幼虫は、莢の内部へ侵入する。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> 防除時期は、成虫が羽化する7月下旬以降。 莢伸長始め(莢長2cm程度)に達したときから、7～10日間隔で2回防除する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●アグロスリン乳剤 2,000倍 収穫7日前まで 3回以内 ●ゲットアウトWDG 3,000倍 収穫7日前まで 3回以内 ●フェニックス顆粒水和剤 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 <p>※アグロスリン乳剤とゲットアウトWDGは同成分なので成分総使用回数に注意する(3回以内)。</p>	

作物名	花き全般	
病虫害生理障害名	食害によるかすり症状や褐変症状	
アザミウマ類		
発生状況	花き類に被害の多いヒラズハナアザミウマ	
多発生		
発生時期	7月中旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・高温期に発生が多い。 ・ハウス周りに雑草が多いと飛び込みが多くなる。 ・加害されると花弁にかすり症状や褐色のしみが発生する。密度が高くなると茎葉も加害される。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・着蕾期以降は定期的防除を実施する。 ・ハウス周りを除草する。 ・品目・品種によっては葉害を生じることがある。 		
<防除の一例> ●トクチオン乳剤 1,000倍 発生初期 5回以内 ●ハチハチフロアブル 1,000倍 発生初期 4回以内 ●ディアナSC 2,500～5,000倍 発生初期 2回以内		

作物名	花き全般	
病虫害生理障害名	スターチス類のがくの付け根に発生	
灰色かび病		
発生状況		
多発生		
発生時期	7月中旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・老化した部位や枯死した部位に発病する。 ・多湿時や風通しの悪い環境で発生が多い。 ・本病は二次的発生が多い。 		
対策		
<防除のポイント> <ul style="list-style-type: none"> ・防除は早朝に行い、薬液を早く乾かす。 ・採花は適期に行い、老化させない。 ・循環扇や加温機ダクト送風により通気性を良くする。 ・薬剤の効果を低下させないためローテーション防除に努める。 		
<防除の一例> ●セイビアーフロアブル20 1,000倍 発病前～発病初期 4回以内 ●フルピカフロアブル 2,000～3,000倍 発病初期 5回以内 ●ポリベリン水和剤 1,000倍 発病初期 5回以内 ●アフェットフロアブル 2,000倍 発病初期 3回以内		


作物名	花き全般	
病虫害生理障害名	アブラムシ類	
発生状況		
中発生		
発生時期	6月上旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・一般的に成長点付近の寄生が多いが、スターチス類では下葉の裏に寄生することが多い。 ・今後、発生量の増加に注意する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・寄生部位に応じた防除を行う。 ・薬剤の効果を低下させないようにローテーション防除に努める。 		
<防除の一例> ●モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 発生初期 5回以内 ●コルト顆粒水和剤 4,000倍 発生初期 4回以内 ●チェス顆粒水和剤 5,000倍 発生初期 4回以内		

◆この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、幌加内町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。気象・土壌条件作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)

◆掲載されている農薬情報は、平成27年7月30日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 【農作業事故防止編】—農作業事故防止は日頃の安全確認から— □■□■□■□■□■

- ・農機の点検や清掃、異物除去等を行う際には、必ずエンジンを停止しましょう。
- ・危険な場所(ほ場内や施設内等)が無いが、日頃から確認を行いましょう。
- ・危険を伴う作業(草刈りや高所作業等)を行う際は、安全確認を必ず行いましょう。
- ・お互い声かけできる範囲内で作業を行い、なるべく「ひとり作業」は控えましよう。
- ・高温時の作業は十分な休憩と水分補給を行い、熱中症を防止しましよう。



点検整備は、必ずエンジンを停止してから